

授業改善書

| | |
|-----|------------|
| 科目名 | パーソナリティ心理学 |
| 担当者 | 遠藤寛子 |

授業の概要

本講義の前半では、「パーソナリティ」およびその研究知見、測定法について紹介した。また、パーソナリティと健康、文化、犯罪などの関連についても論じた。本講義の後半では、パーソナリティと関連が深い「感情」についての基本的理論や研究知見（感情と認知、感情と文化、感情と病理）を紹介した。こうしたパーソナリティと感情に関する研究を概観することで、自己と他者への理解に役立てるよう促した。

授業の問題点

履修者が100名を超えていたため、対面授業と遠隔授業（オンデマンド：動画配信）を交互に行った。授業の満足度、理解度はそれぞれ4.49であり、授業内容が概ね伝わっていたと解釈できる。しかしながら、双方の授業後、リアクションペーパーに感想や質問を書いてもらい、次の授業時に回答するようにしてきたものの、実際の授業アンケート結果では、質問や発言に関する回答が2.72とやや低い傾向にあった。次年度に向けて、更なる工夫が必要になるであろう。

学生の授業満足度

授業内容への関心、わかりやすさ、内容や量の適切さ、授業への配慮、理解度、満足度は、どれも平均より高い傾向にあり、このアンケート結果を踏まえると、概ね満足して頂けたと捉えている。「自分の性格など知れたり、自分以外の性格など知れて面白かったです。」という感想もあったことから、本授業の知識のみならず、その知識を自己理解に応用し、授業目的を達成できている学生もいた。

授業改善の課題と方策

対面授業時には質問できる雰囲気づくりや、遠隔授業時にもチャットやメールで質問タイムを設けるなどの工夫が重要かもしれない。
また、スライドを示す速度がやや速いとの指摘も受けたので、学生の様子を更に注意深く観察し、進めていくことが肝要である。
さらに、コロナ禍にあったため、途中登校できない学生も複数いた。そのような学生に対しては、授業動画や資料を送るなどして、教育の公平性を保つよう工夫した。次年度以降もこうした配慮は継続していきたい。

その他

授業改善書

| | |
|-----|----------------|
| 科目名 | 心理学実験 |
| 担当者 | 遠藤寛子・安崎文子・伊里綾子 |

授業の概要

本講義では、心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後、鏡映描写、短期記憶、推論過程の3種目について、実験を行い、レポートを作成した。受講生は毎回、数名程度の小グループに分かれて実験実習に取り組んだ。1つの実験種目につき3週から4週かけて、実験の実施、データの記録・整理、データ分析を行った。そして、実験結果に基づき、各自が実験レポートを作成した。

授業の問題点

毎週木曜日3限・4限目の連続授業を実施した。授業内容への関心、わかりやすさ、内容や量の適切さ、理解度、満足度は、どれも平均より高い傾向にあり、このアンケート結果を踏まえると、履修生には概ね満足して頂けたと捉えている。本授業は実験実習が中心であり、実験参加の意義が大きかったため、コロナ禍にありながらも出席しようと努力している学生が多かった。途中、登校困難となった学生に対して、対面授業をリアルタイムで中継するという授業も試みたものの、その学生側も教員に負担を生じさせているのではないかとといった遠慮も語られることがあった。

学生の授業満足度

アンケート結果を踏まえると、授業内容への関心や理解度、満足度はどれも平均より高い。加えて、学生側も予習や復習を行うなど非常に努力していたことがうかがえる。本授業を受けたことにより、大学院進学を考えるようになった学生や卒業論文への意欲が増した学生もおり、本授業から意味を見出す学生も複数見受けられた。

授業改善の課題と方策

コロナ禍にあるため、次年度以降も登校困難な学生に対する対応が必要である。そのような学生に対しては、授業動画や資料を送るなどして、教育の公平性を保つ工夫が必要である。また、登校困難な学生への配慮も積極的に行い、教育を受ける当然の権利として認識してもらいたいと考えている。

その他